

豊橋文学めぐり
「ふるさとの民話をたずねて」を開催しました！！

- 日時 5月15日（水）9時～
- 解説 中島三郎さん
- 語り 豊橋民話を語る会
- 参加人数 20名

5月15日、平成25年度の豊橋文学めぐり「ふるさとの民話をたずねて」を晴天の中開催しました。このイベントは、豊橋民話を語りつぐ会によって作成された「肩身のスズキ」という豊橋の民話集の中から数点を選び、その民話が生み出された地を訪れるというものです。民話の語りや郷土の歴史的背景を実際に見学しながら学ぶ事のできるイベントです。

今年度の題材は「野依八幡社と経本」（野依校区）、「大根流し」（杉山校区）、「しあわせ地蔵」（大清水校区）の3作品です。募集人数を大きく上回る申込みがあり、抽選により参加者を決定させて頂きました。



午前中は野依町にある野依八幡社、嵩山寺、そして杉山町の真田神社を訪れました。現地解説の方々には、その地の歴史や民話が生まれた背景の分かりやすい説明だけでなく、資料を準備していただいたり、実際にお宝の経本を用意していただきました。民話の語りも大変迫力があり、内容の濃いものとなりました。



午後は高豊地区市民館で「豊橋民話を語る会」の方に民話を語っていただいた後、「しあわせ地蔵」を見に行きました。大清水町の畑道にあるこの「しあわせ地蔵」は作られておよそ250年ほどだそうです。バスを停車して見学をしました。

穏やかな陽気の中行なわれた今年度の文学めぐりは盛会のうちに終了しました。受講された方から次のようなご感想をいただきました。

- ・豊橋に生まれ育っているながら民話を聞く機会などなかったので今日の文学めぐりは聞いて面白かったです。
- ・民話の語り口調がすばらしく味があり、方言なので親近感もあり、感動しました。
- ・嵩山寺でのお話、大般若経、また、杉山の民話の語りなど皆素晴らしいかったです。豊橋市内でこんな宝がある事を知りませんでした。

今秋にも、趣向を変えた文学めぐりを計画しています。郷土のことをみなさんにもっともっと知っていただくため、これからも様々な企画を考えていきます。ご期待ください。